# 京城新聞



## 妄言妄評（七）　栗嶽生

▲伊藤公　も随分勝手の熱を吹くものなり公にしても井上侯にしても、世間並に劣らず効果を挙るに急なる人なり、世間よりやんやと称誉さるゝを好む性格なり、此點に於ては公は井上侯よりも上なり、廿八九年の交に井上侯（當時は伯也）も韓人の性格を誤解したると、功績を挙げんとするに余り急なりしより失敗せり、公が統監として韓國に來るや、井上侯に劣らぬ功名心を以て改革に着手せられたるやに思ふ、然るに井上侯と同一に屢々韓人に乗せられて、意の如くならず、されど公は井上侯の如く、短慮性急ならざるを以て、放擲せざるも漸進主義てふ好題目の下に變化せり、然るに公の政策に反對する新聞記者は目して拙遠主義だの米國主義だのと冷評せり、之れ随分勝手なる言草なり、随分虫の良き申分なり斯くては公のきまり文句たる誠意を疑はざるを得ざるなり

▲英國主義　乃公をして新聞記者たらしめば英國主義を採るべしと、嗚呼御都合よき申分なり、公は優柔不断の為に屢々失敗するの傾きあり、優柔不断と漸進主義とは自ら別なり、公の英國主義とは之を混同せるの趣ならざる乎、英國主義と云ひ米國主義とか七六ヶ敷く言ふを以て稍々分明を缺けるが、平たへ言へば、乃公の遣口を見て居れ其中には効果を挙ぐべしと云ふ事なり、沈黙して傍観すれば、公には都合よかるべく、新聞記者も好で悪評したくはなけれ共帝國の對外經營上傍観する能はざるを如何せむ、公の政策が誤謬なりと知るに於ては帝國の臣民として黙す能はざるなり、公の對韓政策は英國主義杯と呑氣なる遣方にて公自身は夫にて可なるも、帝國民は利底斯る呑氣なる政策に賛同する能はざるなり對韓經營は公の專有物にあらず、吾人帝國民は之を監督せざる可らず、

## 日韓及び對淸貿易に就て（續）

●關税に至つては日韓貿易上政治問題とし且つ經濟問題として最も研究の緊要を信ずる余は此點に向つて從來日韓關税同盟論者寧しろ一歩進んで撤廢論者であるが財政上及條約上至難の問題である故目下私かに研究中である併し其同盟の如き强ち不能ではあるまいと自信して居る先づ韓國の財政整理を行ふと共に其財源を定め一面日韓の政治關係より第三國に對する條約上の故障を排除し所謂最高約款不均霑の理由を辨明して日韓關税同盟の正當を主唱する事は左程の難事でもあるまいと思ふ現今政治上保護國的關係ある國家相互間に於て此等の實例必ずしも少くない、彼の佛蘭西が千八百八十四年頃安南と締結したる保護條約の如き一切の安南關税事務を監督し越ゑて千八百九十二年かに至り佛蘭西本國の關税法に多少の修正を加へ之を安南東京に適用し且つ佛國及び其殖民地の發航港より安南東京の一港まで其船舶を以て輸入する貨物に限り輸入税を免除せしめ或は千八百六十五年佛國がモナコ公國と締結した保護條約の如き或は千八百七十八年の伯林條約の如きボスニヤ、ヘルタエゴウイチの一切の行政を委任されたる墺地利匈牙利は此等の關税事務を掌握し右二州に至る國境税關を廢止した事等は外政史上著名のものである要するに難事たるを以て之が善後策を講せんには日韓貿易の盛衰に關する事甚だ至大である又政治上に於ける我宗主權の根本目的を達するの上に於ても二者の統一せる對外經濟政策を實行し得ない様では統監政治の前途も甚だ杞憂に堪へない此際此時日韓關税問題[illegible]民共大に研究すべき緊急の重大問題であらうと思ふ若し目を轉じて韓國の對淸貿易に及ばんか昨年下半期より本年に掛け從來に比し非常の殷盛を極め來れり即ち本年上半期に於て既に二百萬圓以上の輸入額を見るに至る此勢を以てせば本年下半期迄には約五六百萬圓の多額に上るやも知れない斯る現象は我日本人として大に注意すべき事のみならず之が原因に就ても細密の調査研究を必要と信ずるソコデ當會議所に於ても目下税關に向て嚴密なる該調査方を依頼すると共に各方面に注意を促しつゝ自らも之が善後策に腐心して居る併し其詳細の案件は今茲に語るの時期に非ず而かも對淸貿易と云ふも其實對獨貿易と云ふ方が或は正當かも知れん何ぜなれば對淸貿易の重なる物は多く獨逸の撰造品たればなり獨逸人の機敏と淸商の冒險的奮闘力と相聯合し來つて我對韓商策に當る此勢ひや決して侮るべからざるものである統監府の官吏先生方は徒らに机上の空想を畫いて祭り騒ぎにのみ腐心せんより其手間で斯る方面に眞摯な研究を仕てほしいものだ蓋し經濟的發展に伴はざる殖民政策は砂上の空中樓閣も同然であらうと思ふ云々

## 短篇小説　指環（中の一）　靑楓作

巴州亭の横丁を半丁許行くと、左側に新らしい小酒然とした二階建がある、主人と云ふは豐頬肥大の五十餘りの男で、名を秋間忠義とて○○會社の重役である、主人は昨年夏の末つ方、妻の病死してからは、後妻も迎ひず娘の芳子と兼と云ふ女中の三人で至極靜かなる生活に滿足を表して居るのであつた、恰度十日許前に暑中休暇を利用して、内地から芳子の弟の忠雄が歸つて來た家内が増へた爲でもあらうか、餘り笑聲もしなかつた此の家も、此頃は何んとなく賑々敷なつて折々様大きな笑へ聲さひ外に洩れる事もある

早や暑熱の退出時刻であらう、嚴しい髭を生やした洋服姿の銀筋や金筋連、果ては破れ袴に汗ばんだ和服の腰辨連も混淆て、或は高くカンラ〳〵と笑ひ、或は沈痛な顔に淋しい笑を洩らしもして、ゾロ〳〵と通る其の後から黄塵は萬丈と飛ぶ。

夫も暫の束の間で、驟て又市街は以前に靜まり返へる、すると何處からともなく、一疋の肥ゑ太つたムク犬がノソリ〳〵と出て來て、巴州亭の門前にコロリと横になつた。

恰度その時、御免下さいと秋間の格子先に立つて、案内を乞ふ一人の男がある、色はさして白いと云ふにあらねど、儼として犯すべからざるの風采は、少なからず人をして、畏服せしむるの價値はある、年は廿七八であらう、白い絣衣に兵子帶を締めて片手に扇子、片手に帽子と云ふ装束である

「御免下さい」彼は再び訪ふのである。

「ハーイ」遠くで聲がするかと思ふと、續いてトン〳〵と階子段を降りる音が聞ゆる間もなく叮嚀に出迎へたのは、女中の兼である

「お入來なさいまし……」

「一寸伺ひますが、芳子様はお在宅ですか」

「お嬢様で御座いますか、ハイ被入ますが貴方は、何誰様で御座いますか」

「僕は立見と申すものです、宜敷御取次を願ます」

彼は猶懷中から、一葉の名刺を取り出して女中に渡すのである。

「少々御待ち下さい」

驟て女中は

「貴方、何卒此處へお上り下さい」

「夫じや御免」

彼は案内に伴れられて、二階にと導かれた

「まア……立見様が……お珍らしいこと……

……サア何卒此處へお這入りなさい……兼やお前ね早くコーヒーを持つて御出でな」

二人は庭園に望んだ窓際に座を占めた

「僕は御訪問仕様〳〵と何時もそう思つて居るのですが、家へ歸るともう歩くのが厭になるので、つい失敬して居ります、まア年は老り度くないものですなアッハヽヽハ」

「立見様は何時も御元氣ですこと、妾などはからつきし意氣地がないので閉口して居りますよ」

「忘れて居りましたが、アノお父様は御留守なんですか」

「ハイ、今夜は會社に晩餐會があるとこで先刻出まして御座います」

「ハアそうですか、何時も御壯健で結構ですね」

「有難御座います」

驟て女中が運ぶコーヒーを飲み乍ら、二人は、暫時四方山の談話に、時を移すのであつた。

・・・・・・・

「姉さん……姉さん、何處に居るのです」

「此處ですよ、なんですね忠雄さん、そんな大きい聲を出して」

芳子は、立つて廊下に出る

「僕、今歸りました」

「左様、早かつたのね、澤山漁れて」

「今日は駄目でした、姉さん來客……」

「エ、アノ立見様が入つしたのよ」

「そうですか、じや僕も逢ひませう」

忠雄は、芳子に尾行て座敷に通る

「立見様、久し振です」

「ヤア忠雄君ですか、何時此處へ……」

「そうです、最う十日許になりますが、韓國と云ふとこは、至つて沒趣味などころですね」

「イヤ住めば都とやらで、之でも中々そうでもないですよ」

「そうでしよか、併し僕にはとても永住の見込はありません、父様や姉さんがよくも斯様とこに居られたものだと思ふと、僕は寧不思議でならんのです」

「忠雄さん、夫は無理と言ふものですよ、如何に邊陬な、如何に汚穢いところでも永く住んで居れば、離れ難い都となるのですよ、之が社會の原則だと妾そう思ひますわ、ねお立見さん」

「全くです、最初は誰しも斯様とこに住んで居られるものかと思ひます、併し住んで見ると何時しかそう云ふ感想もなくなつて遂に永住するの觀念が湧いて來るものです」

電燈は燦として、座中を照した、何處で彈くのか、早や三味の音さへ聞ゆる。

「時に忠雄君、近來の東京は頗る殺風景ですね、ヤレ情死だとか、ヤレ華嚴の瀧行とか、ヤレ又は人殺しだとかで三面記事は、殆ど彼等によつて充されて居ると云ふは、誠に社會の爲めに慷慨に堪ねんです」

「貴君の御言葉の通りです、之が所謂社會衰亡の徵でせう」

「或はそうかも知れませんな、併して此の犯罪の裏面には、必ず婦人の在ると云ふも大に注目すべき現象ですね」

立見は、暫時芳子を見たが、又言葉を續けた。

「だが自殺者の中でも、最も哀れに感ずるのは、僕は如何しても失戀者だらうと思ふのです、君や芳子嬢の御考へは如何です」

「勿論僕なども同感の一人です、僕顧ふにですね、人生は畢竟慾望の權化であるから誰しも名譽や富み希望ねものは恐らくあるますまい、併し乍ら其の名譽や富の奴隷となつて泣も、妻を捨て夫を顧みず、或は意中の樂しき戀を破ると云ふに至つては、實に喫はしい次第です、現今社會の失戀なるものは斯くして害毒を世に流すのであらうと思ひます」

眉目秀麗の青年、秋間忠雄は早稲田中學四年の生徒であるが、常に社會の階級制度を憎んで止まないところから、學友等は彼を社會主義の鼓吹者、又は社會の注意人物だなど〻稱して居るのであつた

## ●孤兒（○文苑一）　大庭生

途ある路次に佇立せる二人の、老ひたると幼きとあり。

「孤兒だつて、軍人になれるんだね……伯母さん」

半は信じて、半は疑ひつ、憂愁の眼光…幼きは、伯母の返辭や如何にと待ち詫ぶるなり、

「オーそうですともそうですとも、明治の御代は、穢多でも孤兒でも皆んな軍人に成れるんですよだから、秀ちやんも早く大きく成つて、お父さんの如に立派な軍人になるんですよ」

伯母の温言、秀ちやんは俄に元氣ついて、「左様」早や立ち上つて、飛び出した秀ちやんの後姿、之を眺むる伯母の心やそも如何に……双眸既に溢るゝ玉の露」

京城新聞

# 曾禰副統監果して若乎

伊藤公は舞子に於て某新聞記者に語りて曰く「樞密院議長に就ては自由黨よりも勧誘ありたれど、韓國の統治は甚だ責任に於て更に重大なり乃公の決心は列國環視の間に必ずや之を成功し見せんと欲するなり曾禰に任じても可なれども未だ若いので不安心の所あり」云々と、白髪白髭の曾禰副統監を以て子供の如く思ひ居るの語氣あり、嗚呼果して曾禰副統監は未だ若輩にして統監政治を一任するに足らざる乎、伊藤公の口調を以てすれば堂々たる副統監も何等の價値なく、参與官等に對すると其の間大なる差違なく[illegible]んばあらず、伊藤公の所說を敷衍すれば、曾禰子に一任するは不安心なれば、尚ほ乃公が自ら之に當らざる可らず然らざれば韓國統治を完ふする能はず、曾禰の如きは尚ほ乃公の指揮の下に置かざる可らずと云ふの意味なるべし、果して然らば統監政治は全然伊藤公本位なり、副統監たるものに對してすら任する能はずとせば徹頭徹尾統監の方寸に從はざる可らず、若し統監にして重患に罹れるか、或は頓死するが如きことあらば如何にすべき乎、如何に不安心なりとも後任選定迄は副統監によりて統監政治を運用するの外わらざるなり伊藤公の老婆心強く、乃公の外此大任に當るものなしとは、從來屢々言ふ所なれども其抱負の實力と伴はざるの結果、何事に逢着しても誇れる割合に成功せず、却て小供視せる後進が効を奏するなり、現に桂太郎の如き伊藤公が內閣を組織したるときよりも却て巧妙に內閣を維持せり、今は全く首相たるの器局を認識せらるゝに至れるなり、伊藤公が持て餘したる政友會は西園寺、原敬等の手に統一せられたり、伊藤公にして之を反省すれば統監政治と雖も、必ずしも公に非ざるも運用し得らるべく、其人を得れば寧ろより以上に發展し得べきを覺らるべし、故に乃公に非ざればと云ふが如き自惚心を撤去して、伊藤本位の統監政治を革めて、能く後進に任ずるの雅量を持たざる可らず、若し曾禰子にして一任することが不安心ならば、安心すべき人物を擧て其衝に當らしむべし、任地に留ること少き公が統監たる以上は、副統監をして責任の地に立たしめて以て統監政治を發展せしめざる可らず、老碌せる老人は漫に後進を以て子供の如く思ふ、子供視せらる後進は却て老碌翁に幾倍優るの例は乏しからず、伊藤公と後進の關係亦此例に漏るゝ能はざるなり若輩とせらるゝ曾禰子は如何、元氣こそ盛なれ頭髪鬚共に雪の如く、齢は耳順に達し最早老人組となれり、政治家として好き年齢なり、然るに一任するを不安心なりときが為なる乎、曾禰子に就ては世間既に定評あり、余輩は唯伊藤公の老婆心と狹量を憫まずんばあらず。

東京電報

## ▲三重丸乘組員解放

三重丸乘組員は野村領事の交渉によりて解放せられ船體の受渡も濟み近々歸航す

## ▲コ博士送別會

昨夜コッホ博士の送別會あり北里博士の外廿六名の博士參列しコッホ博士は日本の進歩に就き讃辭を述べ一同歡を盡して散會す

## ▲清國の國會開設

北京政府は近々國會開設を公布し國事及び逆謀に關する犯罪の外大赦を行ふべしと云ふ（以上二十三日發）

雜報

## ●韓太子の函根行

韓太子は伊藤統監と共に昨日大磯發函根塔の澤に赴かれ三四日御滯在の御豫定なりとの電報あり

## ●丸山警視總監の轉任地

丸山警視總監が某縣知事に轉任する事となりたるは曩に東電の傳へたる處なるが今確かなる筋にて聞く處によれば其の轉任地は島根縣に決定したる由にて氏の縣知事たらんとせしは年來の希望にして殊に警視廳官制改正後は其の希望は決心となりたる際日本內閣の交迭は氏の希望を達するに好都合にして今回其の目的を達せらるゝ事となりたるなりと云ふ

## ●警視總監の後任候補

丸山警視總監が今回島根縣知事に轉任せらるゝ事となりしは別項記載の如くにして其の後任者に關しては曩に報道したる如く警視廳存廢の根本問題を解決する迄當分松井警務局長の兼任を見るべしとの說ありしが更に聞く處によれば總監の交迭は種々の事情ありて島根縣知事若林賚三氏其の後任に擬せられ目下東京に於て交渉中の由にて氏が果して承諾するや否やは疑問なれども其の交渉は大に進捗し居りて事實となるべき模樣なりと云ふ

## ●滿鐵疑獄兩會社協約

滿鐵會社と萬國寢臺急行車會社との間には本月始を以て乘車切符賣出取扱に關する協約を訂結し既に着々實行されつゝあり該協約は公文十二ヶ條より成り其內容の重なるは(一)滿鐵會社は同社所屬鐵道列車の乘用切符を寢臺會社に交付し後者は極東及び歐洲所在の各代理店に於て該乘車切符を一般公衆に賣出す(二)寢臺會社は上記切符を況く賣出すが為めに必要なる廣告手段を適宜に實行す(三)滿鐵會社は右切符取扱の手數料として乘車切符賣出總額の五分を控[illegible]ては大連、奉天、牛莊、天津、北京、哈爾賓、に置き歐洲にては莫斯科、聖彼得堡、ワルソウ、伯林、巴里、倫敦に置く(五)大連より上海行の神戸丸乘船切符も同く寢臺會社をして取扱はしむ尚此協約は中村滿鐵總裁此程上京中に調印を了したるもの也

## ●特許出願の注意

今般日米條約に基き統監府特許局を開始されたるが這は日米韓三國の臣民若くは人民の特許、商標、意匠の權利を保護せんがため設置したるものにて此三ヶ國の中の一國にて特許又は商標意匠の登錄を得たる者は他の二國に於ては其手續を要せずして登錄をなしたる國同樣保護せらるゝものなるが此際に於て注意すべき點を掲げんに

(一)特許に在りては施行の際に發明權（例令は日本に一般許されたる發明權）を使用し居る者は何等の制裁を加へず

(二)商標は本法施行の日より六ヶ月以內に統監府特許局長へ登錄を申請すべし

(三)日韓米三國人が本法施行前に米國にて得たる特許、商標、意匠の權利は本法施行の日より一ヶ年以內に出願をなすときは其優先權を主張する事を得但し此場合には登錄手續料を要せず

(四)登錄願書式登錄料及手續料は日本に於けるものと毫も異なる事なし

(五)日韓米三國人以外の諸外國人は更に統監府特許局に登錄をなさゞれば保護を受くるを得ず而して其本國に於て登錄を為しありとするも韓國に於て登錄を爲さゞれば或は同等のものを他より出願したる場合に特許局は其先願者に許可すべし

## ●手踊禁止の訓令

大浦農商務大臣は國民一般の奢侈浮華の弊を矯め勤儉質素の風を養はんが為め去十五日各府縣知事に內訓を發して各府縣の共進會、品評會等が濫に人氣を引立たせ觀覽者の數を多からしめんが為め藝妓の手踊或は華奢の宴會を開催し徒らに巨額の經費を投盡し以て豪奢の風を助長するの弊を警め特に近々長野市に開催せんとする一府十一縣聯合共進會の主催者たる長野縣知事の出京を促し嚴に其意を訓達したりと因みに從來勸業博覽會及び共進會等に於て藝者の手踊りに供したる費用は數十萬圓に上り中に就て前年大阪に開かれたる內國勸業博覽會には十五萬圓一昨年東京府主催の博覽會は約五萬圓を費消したりと

## ●公州と南韓鐵道

公州小井里間の道路は六月以來治道局比田技師監督の下に公州府北端より測量に着手し目下公州より小井里の中間迄測量を了り本月一日より府の北端より起工し目下韓人夫約二百名を使役し日々工事を急ぎつゝあれば約一ヶ年の後には新道路の開通を見るに至るべし而して此道路開通後南韓鐵道鳥致院より分岐し[illegible]は著しき發達[illegible]に至るべしと

## ●公州日本人會の總辭職

公州の日本人會長以下役員は同地官吏側より日本人會規則の一部を改正し現任評議員の半數を官吏側より撰出せんことを申込みたるに對し會長は之を評議會に提出し協議する所ありしが議論百出容易に決せず遂に會長始め總辭職をなすに至れりこれにて同地に於ける官民間の疎隔を見るに至る可し

## ●硯滴（大阪毎日特派）

到る所題目を附物にして居るから[illegible]の旅行かも知れぬが[illegible]を韓太子の御見學に陪して御指導の任を盡して居る伊藤大師の勞や[illegible]といはねばならぬ▲まだ其上に統監は九月上旬を以て韓し半月內には嚴妃を伴ひ歸朝するとの事だイクラ達者だとはいへあの老軀を以て日韓の間を飛脚的に往來するのは實に御苦勞千萬の話だが斯くまでにして力めても一向公の骨折を有難がらぬもの多いのはドウしたものであらう▲最も韓國の事情に精通せる歸客の談によると太子の御見學旅行に就ても韓人何等意に介せざる趣で又伊藤公の慣用手段が始まつたかと越人が秦人の肥瘠を見ると一般だとは張合のない話でないか▲然し斯の如きは抑も未だ「伊藤公の留任は我國の為め最も悲むべき事なり」韓國の經營は公の為に犧牲に供せられたり」といはるゝ如き情無い骨頂でないか▲彼等は伊藤公に失望せる重なる理由は公が功名に急なる為に實利を失ふの狀態に[illegible]したもので彼等は常に韓國の將來に關し「韓人は宗教の為め米國化すべし土地鑛山は外人の專有に移り我は只韓國保護の虛名を擁して年々千餘萬圓を支出する馬鹿を見るに止まるべし」と絶叫して居る▲實際該徒を煽動せるは重に米國の宣教師で目下一般の信者は百萬人の多きに達し此等は常に統監の政策に反對して居る剰へ教育の大部分は是亦外人の手に依て普及され居る為め自由思想を深刻され政治宗教の兩方面より反對の氣勢を昂められて居る▲然るに人よしの統監は斯くまで質の惡い外人の歡心を得るに汲々とし側に姑息を覗ふの形あり日本人の土地所有は韓人の好まざる所だと公言して此を妨ぐる結果今や邦人の土地に對する投資千五百萬圓に對して外人の土地所有は少くとも五百萬圓以上に達して居る▲其他鑛山然り山林然りで農業殖民の第一着を誤りたる上有ゆる利權を皆外人に荒らされて仕舞つて居る

## ▲豫告▼

韓國經營上偉大なる貢献を為すべき東洋拓殖會社は近々成立せんと致し居り候、在韓十有五萬の吾人同胞は申す迄もなく千有餘萬の韓國民も等しく同會社の成立を歡迎致すことゝ存候、依つて本社は此際を機とし、日韓諸名士及び實業家が同會社の事業に對して懷抱せる高見を叩き順を追ひて日々の紙上に掲載し以て同會社關係者及び公衆の參考に資せんとする考へに御座候、冀くは掲載の日を俟ち幸に精讀之あらん事を

右謹告仕候

京城新聞社

## ●仁川居留民會開會

仁川廿九回民會は昨日午後七時より民役所樓上に於て開會し種々の議案を審議したる後民長官選に對する議員の態度を決定すべく協議會を開きたる筈なるが本稿締切迄は其決議不明なりし

## ●仁川民團四十年度決算報告

仁川民團四十年度豫算報告の概要左の如し

▲歳入豫算金十一萬二千百五圓、一金十萬二千七百四十七圓五十二錢經常部決算高豫算金四千六百圓、一金五千二百十九圓十一錢臨時部決算高、合計豫算金十一萬六千七百六圓、合計金十萬七千九百六十六圓六十三錢歳入決算高

▲歳出　豫算金七萬九千八百十四圓、一金七萬六千百十三圓七十一錢、經常部決算高豫算金三萬六千八百九十一圓、一金三萬七百五十一圓四十六錢臨時部決算高、合計豫算金十一萬六千七百五圓、合計金十萬六千八百六十五圓十六錢歳出豫算、高歳入出差引殘金千百一圓四十七錢翌年度に繰越高

## ●仁川築港期成會決算

仁川築地期成會の決算は昨日加來委員長の手より各委員に宛て發表せりといふ

## ●婦人會の小學校教員慰問

愛國婦人會支部にては目下夏期講習會の為め地方より入京せる小學校教員及び京城教育會員を招待し昨日廿四日午後七時より統監府食堂に於て活動寫真を開會慰問の意を表す

## ●大韓婦人會の演藝會

李址鎔夫人を會長とせる大韓婦人會は同會附屬學校經費に充當するため本月廿六日より三日間旭町なる歌舞伎座に於て慈善演藝會を開催す出演者は伊東文夫一座及び京仁の藝妓數名及び其他の有志者にして入場料は一等（白券）一圓五十錢二等（青券）七十錢三等（赤券）三十錢なりと

## ●孤兒院ご下賜金

去る廿一日は太皇帝御誕生日に付鍾路孤兒院生徒五十二名は院主に引卒せられ同日午後三時三十分德壽宮[illegible]遙に祝意を表したるに太皇帝は承寧府總管趙民熙侍從李龍瀷を差遣され孤兒院長ご[illegible]して即時金四百五十圓を御下賜相成りたり

## ●不通警備電話修復

過日落雷の為め不通となりし新溪新幕間の警備電話は當局者に於て直ちに修復工事に着手せしも電話器二個破損せるを以て全く全通するに至らず

## ●警備電話

全羅南道靈巖長興間の警備電話は去る二十日より通話を開始せり

## ●一進會と李起鉉

一進會にては二十一日評議員會を開きたるが其席に於て宮內府種牧課長李起鉉は職權を濫用して現住家なる中署寺洞にある宮內府所管に屬する家屋を妄りに使用したるは臣たるものの住居する能はざるは勿論專橫の處置なれば速かに宮內府に照會して立退かしむべしとの議を提出したるものありたるが此の如きは本會の綱領に違反する者なりとて立消となれり

## ●高浪浦附近狀況

高浪浦は京畿道長端郡第一の土地にして朔寧より連なり仁川に至る臨津江ありて其中央なる右岸に凹部に位置し船付場に於て登船の多くは食鹽、降船には大豆其他の雜穀類を積載し何れの船も皆當地に碇泊し積載荷物の積替等をなす而して此地は商業の中央地點にして年內の輸出高百七十萬圓輸入高一百萬圓內外の取引ありて有力なる商業家あり昨年六月頃迄には日本人も出入し居れり當浦は三ヶ村に別れ戸數三百餘支那人も八九人住居す、毎月六回市場を開き諸方面よりの人出非常に多かりしが昨年暴徒の蜂起するや彼等の横行地點となり被害甚だしく有力なる商人の避難したるもの過半に及び隨て商取引も一時停止の姿に陷りたるが高浪浦憲兵分遣所の開設されしにより在村の者は大に歡迎の意を表し諸事便宜を盡し又避難せる者も漸く安心して歸浦しつゝあり然れども勞働者間は船場の事とて人心洶情に見受らる

## ●仁川五年間火災數

明治三十六年より四十年に至る仁川に於ける火災の數は左の如し

| 年度 | 失火 | 不審火 | 燒失戸數 | 損害 | 保險支拂高 |
|---|---|---|---|---|---|
| 卅六年 | 三 | 一 | 三七 | 五三、一〇〇 | 二一、三〇〇 |
| 卅七年 | 一 | — | — | — | — |
| 卅八年 | 一 | — | — | — | — |
| 卅九年 | 四 | | | 三五五、〇〇〇 | — |
| 四十年 | 七 | 一 | 五八六 | 九〇七、三八〇 | 六六、四四四、〇〇〇 |

## ●梅博士の歸朝

韓國法典調査局顧問法學博士梅謙次郎氏は愈よ來る二十八日出發歸朝の途に就かるゝ筈なり

## ●横山聯隊長の訃

第十三師團步兵第五十一聯隊長步兵大佐横山新治氏は豫て病氣にて東京赤十字病院にて治療中の所去る二十二日遂に死去せられたり

## ●白寅基氏の歸省

韓一銀行專務取締役白寅基氏は鄕里の兩親を慰する為め往復三週間の豫定にて一昨日鄕里全州に向ひ出發

## ●銅峴分署長の更迭

南部銅峴分署長牧瀬伊左衛門氏は昨日內部に轉じ後任署長は北部在勤の田部[illegible]なりし

## 公人私人

▲山下秋潮（春川農工銀行員）廿一日入京長州屋
▲中山岸次郎（[illegible]財務官）一昨夜入京九州旅館
▲朝日青州（大阪日報記者）一昨日入京三日月旅館
▲小出肥信一（石川島造船所技師）一昨日平壤に向け出發
▲山口元太郎（大阪商船[illegible]監督）一昨日歸朝の途に就く
▲淺井雅承（憲兵隊附一等主計）一昨日平壤へ向け出發

## ●近事片々

▲列國の日本に對する觀察は近時甚だ猜疑に傾く形勢あり大に識者の注目を要する也
▲濠州に於ける太平洋貿易の關係より英米兩國親善說の如きも注目するの價値あり
▲米獨同盟說の如きは唯一部の說に過ぎざるも大勢或は此說を強力ならしむる憂あり
▲同盟國にして最も非道ある英國民の中にさく隨分排日を唱ふる者あり機微察すべし
▲獨逸と云ひ佛國と云ひ露國と云ひ極東に關係ある者日本に對する近時外交は如何
▲列國の對日本外交を觀察すれば寒心すべき事勘からず今は將さに緊褌すべき時也
▲桂內閣外交刷新は小村伯歸朝の上多少は一新すべきも帝國々是の確定こそ肝要也
▲時宜に依りて合縦連衡もよし孤立もよし唯毅然たる確乎不拔の國是を要する也
▲國是にして曖昧ならば外交を誰か擇ぶ所以なし是れ桂內閣の先決問題にあらずや
▲對清政策も對韓政策も國是にして確定せば忽ち解決すべき也總て曖昧模糊は非也
▲米國の如きは平和と正義唱導の下に帝國主義を採れる者の如し是今世紀の大勢也
▲列強亦同一の步調なれども米國は最も嚴正に明瞭に聲言せる者の如し日本は如何
▲米國大統領は非律賓は二十年後に或は獨立すべしと聲言す果して是れ異意なる乎
▲紐育ヘラルドは何は米清同盟說を鼓吹しつゝあり驅策的として等閑視する勿れ
▲南阿公果の合併問題は自國下院を通過せりと自國にして此事あり大勢知るべき也
▲米國エバンス提督日米兩海軍を評して個人として日本に劣る射擊は日本に優ると
▲日露戰役前露の海軍將校等も能く之と同一の評を為せし事あり兎角は我田引水也
▲丸山總監の轉任は益々事實となれるが如し後任は內地の某縣知事なりとの說なり
▲依之觀之警視廳廢止問題は唯噂のみなりしか新總監は果て適當の人物なるべき乎
▲韓國大官連の中に彩票局花闘局の設置を目論見つゝありとは事實なる乎聞まほし
▲一進會の總辭職勸告は亦々不得要領の下に消へつゝありと亦例の通り一時中止乎
▲中止に就ては矢張先度の如く面白からざる噂立つ豈夫目腐れ金の爲に非ざるべし
▲四十五萬圓の統監邸建築は本年より着[illegible]

## 又々未決囚の破獄

嚢に十四名の未決囚が共謀破獄を企てゝ日本人看守は傷けられ其の數名を逃走せしめたる京城監獄署に昨朝又々十九名の未決囚共謀破獄を企て其の二名を殪し一名を傷け名一を逃走せしめたる椿事を出來せり其の顛末は今豫審中にして詳細に之れを報導するを得ざるも聞く處によれば昨朝六時十分當直の看守は例の如く第三房に收容せる未決囚十九名を房前に出して點列せしめ一名の看守は房内の檢查に入り一名は十九名に號令して洗面部に向はしめたるに彼等は豫て共謀し居りたるもの〻如く突然看守を推し倒して逃走を企て看守が此れを防止せんとするや側に在りし腰繩を破りて打つて懸り一團となりて内門を突出せんとせり折柄來合せたる大越部長大聲叱咤して此れを止めんとせしも彼等は益々猛り狂ひて同部長に打つて懸りたれば部長は已むを得ず拔劍して最先きなる一人に一刀切り付けて此れを倒したるに之れを見たる一同は大ひに逡巡の有樣なりしが再び煉瓦木片を振りかざして内門に向ひたれば門衛の看守は空砲を放ちて威嚇したるに益々狂暴を逞ふしたるを以て遂に實彈を發して一人に命中此れを殪したるに一同は此れに逆易して房内に逃げ込みたるが其の一人は隙を窺ひて内門外に逃走し向の看守を推し倒して外門に到り韓人看守の帶劍を奪はんとせしも一刀を加へしに門外に逃走せり此れを見たる日韓人看守三名は直ちに追跡して門外に出で鐘路を西に走る事約二丁にして追及せしに彼は路傍にありし石を執つて抵抗して接近すべからず後れ走せに追及したる久保事務員斯くと見て眞向より切り下し遂に此れを殪したり此の鬪爭中一人の囚人は獄内より屋上に上りて逃走行衛不明となれり當日は監獄に在りし職員國分當直看守長以下十五名（日本人六名）なりしが何れも幸にして無事なりき右の報に接したる依田判檢事は昨日午前十時書記を隨へ同署に到り高頭監獄醫と共に臨檢を爲せり

## 官吏の商賣

「の標題の下に長々しき投書ありたゞが服務規程が何うの斯うのと云つて見た所で此頃は政府でさへ民間と競爭的なる營業をなし職工を誘拐するやら原料の買ひ占めをさへなす程なれば官吏が商賣したりとて何も不思議がるには當らず記者なぞは其處は夫れ所謂開けたものなり併し事實として投書せられたるものを珍らしくもなしと沒書すれば或は記者奴彼奴等の慣用手段の御馳走酒に中毒して居るな杯と痛くなき腹を探くらるゝも辛ければ經緯だけを記さんに鐵道管理局活版部の雇員田部某と云ふが其上役たる○○購買係の何某なぞと結托して原料買入れに就いて儲け（とでも云はう）たる少なからざる金に或る紙屋の番頭に或る好條件を附して出させたる金とを資本として西小門通りに諸印刷物の印刷所を設置し主任某をして表面の經營に當らしめ同局より出つる注文は前記の人々にて裏面に於て運動して之れを一手に引き受けし計劃なりと云ふ迄のことなるが眞實とすれば成程之れは宜い思ひ付きなり。妬むな／＼

## ●清津兵營材料に放火

十日午後十一時頃羅南にある陸軍營理部の西方に堆積したる兵營の建築用材料に石油を注ぎ放火したる者ありしが附近の者之を發見したるを以て大事に至らずして消止めたり現場の模樣によれば暴徒の餘類か若しくは營理部に對し不平を抱き居るもの〻所爲ならんと

## ●乱暴なる教員

此程より南山町三丁目第二小學校前の某下宿屋に仁川方面より夏期講習會の爲め來れる小學校教員の一團凡そ十名計りあり二階と階下とに分れて下宿し歸れるが最初の二三日は別に何等の異狀もなく殊勝に暮せしも四日五日と日を經る中には尻尾を現はして牛飲馬食の果てが喇叭節や東雲節などを唄ひ出しては東雲告ぐる頃まで南山に響き渡らん計りの喧囂をなすものあれば高聲放談聞くに忍びぬ淫猥極まる言を發し醉ふた元氣で門より飛び出せば誰れやらの十八番の米山を一緒に連れて唄ひ出し丑滿つ頭歸つて來るにも暴徒でも亂入する如く其舉動の亂暴なる下宿者は一人として不平を鳴さぬ者はなく行人すら此の家は馬鹿に上景氣だと云ふ位今日迄何人下宿しても誰一人さして大聲を發したるものなく至りて寂然たる下宿屋なりしに此頃の有樣には下宿人は別として眞向ひの家や隣りの婦人まで誰れ驚かぬものはなく况して隣家には子供が病氣にて其看護中なるにも拘らず右の如き始末にて安眠を妨げられ爲めに不眠症所謂イソムニヤに陷り苦悶し居るにあらずや夫れにも頓着せず如何に旅の恥は搔き棄てといひながら斯る亂暴極る行爲をなす之れが韓國に來て日本の兒童を預る教師かと思へば實に寒心に堪へざるなり况んや目あり識ある當局者や自分の兒童を預け置く父兄の眼から見たら如何なる感か起らん實に教育家としてあるまじき擧動といはざるべからずとの投書ありたり

## ●小僧の毆打沙汰

壽町一丁目脇洋服店小僧金子秀一（十七）といふは明治町一丁目高岡洋服店小僧齋藤某（十四）に何か遺恨を含み去る十六日の夜同人を連れ出し佛國教會堂下の小開き所に至り齋藤を毆打し面部腰部等數ケ所に創傷せしめたれば齋藤は直ちに醫師の診斷書を取りて南部警察署へ告訴したるに秀一は其場より何處へか身を隱し居りしに一昨日午後四時頃捕はれ警察署へ引致されたり

## ●賭場くづれ

旭町四十七番地大谷勝一（三十）方に於て一昨日午前三時半頃ガヤガヤと人聲の洩れるよりそも何事ならんと密行巡査は窃に忍び寄り様子如何にと裏手硝子窓より覗見れば四人の者が賭博に花の大景氣なるより直に踏込み取押たるが此者等は明治町三丁目百二十番戸福岡縣平民大野作平（三十七）同方福岡縣平民石井萬吉（三十）永樂町三丁目八十五番地熊本縣平民宮崎三次郎及び前記勝一なり

先般漢城病院内科部を辭し歸省中の處歸京
左の所に於て診療に從事す
理事廳前
統監府通信管理局囑託
醫學得業士　池田季雄

## ●ソッと內地へ

本町八丁目料理屋末益亭末岡益吉方酌婦熊本縣生れの木下アキ（二十）は内緣の夫たる同縣生れ岡本鹿太郎と相談の上前借三十圓にて同亭へ奉公したるものなるがアキは淫賣が嫌さの餘り二十日の夜同亭を逃げ出し旭町一丁目渡邊柳吉方なる鹿太郎の許へ來り忍び居りしが兩人は共謀の上二十一日の夜行汽車にてアキを内地に歸らしめたるを益吉が聞知り鹿太郎を南部署へ訴へ出でたり

## ●往來が家

大阪府西成郡豐崎村大字南長柄百〇一番地平民無職米村金吾（二二）は住み家も持たぬ屁の如き男と見へ一昨日午前三時頃本町四丁目山口呉服店軒下に寢ねグウ／＼鼾聲を發し太閤樣も橋の上に寢て居らつしやる所を蜂須賀小六に見出されて天下を取つたのだ俺れも誰れが見出して天下を取る時節が來そうなものと夢みつゝある最中に巡査に見出され警察署へ引張らる

開業廣告
今般漢城病院眼科部長を
辭し左の所に開業す
京城本町一丁目郵便局前
醫學得業士　江頭富雄

## ●アラ飲み

部山元町四丁目中村教三郎方疊職若松一正（三十）は廿二日午後十時過ぎ同職なる西村寅市（二十）を伴ひ本町一丁目裏通りなる料理屋君廼江に登樓なし一圓九十八錢の飲食をなしたるも懷中は八錢五厘のみて勘定となりたる時自分は此樓と知り合ひの間柄なれば無論月末にも延し呉れることゝ思つて來たとて談せしも樓主の聞入れざる處となり警察署へ引かる

## ●盜人踏捕まる

福岡縣八女郡川崎村四百四十六番地本莊一德（三十）といふは一昨日午前十一時三十分長谷川町二十六番地山口玉吉方同居中島三郎所有に係る衣類數點を竊取し逃げんとせるを玉吉に取押られ警察へ突き出さる

## ●京城座の舞台開き

本町七丁目に移轉改築したる京城座にては既報の如く大阪若手俳優中村長右衛門阪東太郎一座二十二日夜着京したるを以て昨日居留民の重立たるもの及び各新聞記者を案内し盛大なる舞台開きをなしたり尚は同一座は引續き同座に於て興行する筈なれば久しく舊芝居に渇へたることゝて嘸ぞかし好况を呈すべし

## ●迷兒

一昨日午後六時十分一人の迷ひたる女兒銅峴分署へ屆られたるが同日午后十時北部東十字橋十一統十一戸邊昌俊（四十）の子なる眞善（十三）と明り引渡されたり

## ●天然痘

西小門通三十一番戶森川庄太郎（四十）は二十日發病二十三日診定天然痘と判明し隔離病院へ送られたり

## ●一昨夜の自然主義者

新町に浮れ込だる自然主義者の面々は山遊四松榮四京城一五第一文十七第一七高島三井門六皆春十六南山四清月九月下四大桝十一合せて百此費消高五百三十五圓四十八錢

漢城病院を辭して開業
京城南山町第一銀行横町
醫科大學專攻
統監府囑託　飯塚徹
仁川分院（五、十の日飯塚徹出張）○仁川病院前電二四六

歯科
仁川主任東京共立歯科醫學校前講師　藤井庄次郎

## ●訂正

前號の紙上に淺田商店の猾策と題して掲げたる記事に對し左の通り申込みあり

八月廿三日發行貴社新聞三面に於て淺田商店の不埒と題し掲載したる事項中淺田商店は成歡、天安、禮山地方に支店を出し日用雜貨を營み來れるが此不景氣に損のみ來すより一策を案じ同地方の酒保商人が軍隊と結托して不當の利益を占めつゝあるが如く仁川商業會議所に申告し又地方の店員をして匿名を以て盛んに軍隊及び酒保商人の不法なる旨を仁川商業會議所に宛郵送したるを以て同會議所は之れを事實と信じ未だ調査を終へざる以前發表したるより此事一時に傳へらる云々との記事は事實全く相違す

（一）當會議所は本問題の事實調査中未だ嘗て眞相を發表せず

（二）當會議所に於て蒐集したる事實の材料は獨り淺田商店の請願のみにあらず確かなる筋に依頼して得たる材料數件あり

（三）酒保商人が普通商店より日用品雜貨を低廉に販賣したるは事實なり

（四）當會議所がなしたる今回の調査と御用商人なる者の輸入に正不正あるや否やと云ふ問題とは全く別個なり

當會議所が發表し得る處の事實は前記の如くにして淺田商店一個の請願に依りて調査の終へざる事實を發表したるが如く記載するは誣言の甚しきものにして又或る信ずべき筋より聽く處によれば軍隊と酒保商人に不正行爲なしと記載する以物品を低廉に販賣するは法規に抵觸せずとの意か或は全く普通商店よりも貨物を低廉に販賣せずとの事なるか不明なれども當會議所が本問題調査の主眼は軍隊或は酒保商人が普通商店の存在地に於て日用貨物を低廉に販賣せらるゝときは我商權の振張を害し延ひて貿易の發達を妨ぐるものに在りと云ふに在りて軍隊及酒保商人の行爲が果して法規に抵觸するや否とは全く問ふ處にあらず故に貴紙上の記事は全く事實を捏造したるものなりと信ず但本記事の掲載せらるゝ以前淺田商店は曩に當會議所は差出したる請願書を貴社の所謂或る確かなる筋よりの請求に依り取下げたり右全文記載の上御訂正を乞ふ
明治四十一年八月廿四日
仁川日本人商業會議所書記長荻谷籌夫
京城新報社御中

